

2005年防災教育チャレンジプラン最終報告書

記入日 2006年 1月 26日

I 概要

実践団体・担当者名	徳島県阿南市立新野東小学校 (担当者：中川雅博)	
連絡先	電話 0884-36-2103	
プランタイトル	I LOVE 廿枝 ～私たちの手で守る～	
目的	近年，絶対に起こるといわれている南海地震。そのとき自分たちの住んでいる地域の一員として何かできることはないかを，子どもたちなりに見つけ，地域への防災教育の普及を図る。	
プランの概略	年間を通して，総合的な学習の時間で行う。特に体験活動を通して防災意識を高めていきたい。そして，自分たちが考えたことを地域に発信していく。 1学期 「廿枝は安全か！」 徳島県立防災センター見学 2学期 「非常時には何を！」 地震避難一泊シミュレーション 平成17年10月20日～21日 3学期 「廿枝から発信！」	
プランの対象と参加人数	新野東小学校6年児童，教職員，保護者，阿南消防組合職員 阿南市民安全局 40名	
実施日時	2005年10月20日～21日	
主な実施場所	新野東小学校運動場・体育館（徳島県阿南市新野町）	
連携した団体名、 連携の方法	連携団体の有無	特になし
	連携した団体名	
	連携したきっかけ・理由	
	連携団体へのアプローチ方法	
	連携団体との打合せ回数	
	連携団体との役割分担	

Ⅱ プラン立案過程

プラン立案 メンバーの 人数・役割	団体内のスタッフ総人数	19 名（担任と児童）
	外部スタッフの総人数	0 名
	主なメンバーの 役職・役割	責任者 中川雅博（新野東小学校6年担任）
プラン立案に要し た日数・時間	立案期間	2005年4月 ～ 2006年1月
	立案時間	教育課程の中で随時
	上記のうち打合せ回数	
プラン立案で 注意を払った点 工夫した点	○ 「総合的な学習の時間」を通して、自分たちにできることを考え、活動がこれからの生活に生きるものとなるようにしたいと考えた。 ○ 防災に関連した諸機関の協力を得て、地震に対する認識を深められるようにした。 ○ 他の学校行事と並行しながらで、教育課程上の負担にならないよう配慮した。	
プラン立案で 苦労した点	○ 子どもを体育館で宿泊させることでの健康管理に気をつけた。 ○ 子どもたちの力でどこまでできるかが、一つの課題だったために保護者の好意的な支援をどこまで受けるか。 ○ 活動が防災シミュレーションの目的から違った方向に活動がそれていかなかった。	

Ⅲ実践にあたっての準備

準備に関わった方 と人数・役割	団体内のスタッフ総人数	2名
	外部スタッフの総人数	0名
	主なメンバーの 役職・役割	責任者 中川雅博（新野東小学校6年担任） 渉 外 鎌田二洋（新野東小学校教頭）
準備に要した日数 ・時間	準備期間	2005年 4月 ～ 2006年 1月
	準備総時間	教育課程の中で随時
	上記の内打合せ回数	
教育関係への 働きかけ	働きかけた教育関係者・機 関名	阿南市教育委員会
	どのように働きかけたか	学習の一貫として活用する「かんぱん・水」の支 給を市民安全局にお願いすることを届けた。
	結果	快く支給していただいた。
地域への 働きかけ	働きかけた地域の人・ 機関名	なし
	どのように働きかけたか	
	結果	
保護者・P T Aへ の働きかけ	働きかけた保護者・ P T A組織名	新野東小学校6年保護者・P T A
	どのように働きかけたか	計画の文書を配布
	結果	学級の役員さんから各保護者にも連絡していただ き，協力を得た。
機材・教材の 準備方法	用意した機材・教材	○機材：スクリーン，プロジェクター，パソコン， 長机，黒板 ○ワークシート
	入手先・入手方法	○機材：スクリーン，プロジェクター，長机， 黒板は学校 パソコンは担任 ○ワークシートは担任が作成

	機材・教材選定の理由（なぜこの機材・教材を選んだのか）	○一泊シミュレーションで、阿南消防組合の方に講演をしていただくため
参加者の募集	募集方法	特になし
	募集期間	年 月 日 ～ 月 日
	参加予想人数	名
	実際の参加人数	22名
	募集方法の成功点	
	募集方法の失敗点	
準備で苦労した点 ・工夫した点		特になし

Ⅳ タイムスケジュール（プラン立案から実践終了までのスケジュールを記載して下さい。）

	プラン立案	実践にあたっての準備	実践
2004 11月			
12月			
2005 1月			
2月			
3月			
4月	年間計画作成		
5月	徳島県立防災センター計画		寝室マップ作成

6月			徳島県立防災センター見学 6/15
7月			
8月			
9月	地震避難一泊シミュレーション計画	○保護者へ文書発送	
10月		○阿南消防組合講師依頼 ○市民安全局要望 ○シミュレーション材料買い出し	地震避難一泊シミュレーション 10/20・21
11月			市民安全局見学 まとめ
12月	由岐町訪問計画 パンフレット製作計画		
2006 1月			パンフレット作成 由岐町防災見学 報告書作成

V実践の詳細 【A. 素材】（メインとなる活動を 45 分を 1 コマとして記入して下さい。）

タイトル				
実施日				
所要時間	45分			
達成目標				
生成物				
進め方 (箇条書き)				
ツール (特別に用意した もの)				
場所				

V実践の詳細 【B. イベント】（短期集中型のプログラムを45分を1コマとして記入して下さい。）

タイトル				
実施日				
所要時間	45 分	45 分	45 分	45 分
達成目標				
生成物				
進め方 (箇条書き)				
ツール (特別に用意した もの)				
場所				

V実践の詳細 【C. 総合的な学習の時間】（継続的な学習を45分を1コマとして記入して下さい。）

タイトル	地震避難訓練一泊シミュレーション物語を作ろう	地震避難訓練一泊シミュレーション かまどづくりと竹の切り出し	地震避難訓練一泊シミュレーション 竹飯ごうでのごはんづくり	地震避難訓練一泊シミュレーションを家族に紹介しよう
実施日	9月29日	10月20日	10月21日	10月31日(参観授業)
所要時間	45分	45分	45分	45分
達成目標	地震を想定した物語書くことができる。	ごはんづくりをするための準備ができる。	竹でごはんを炊くことができる。	
生成物	● ワークシート			● ワークシート
進め方 (箇条書き)	● 一泊シミュレーションの説明 ● 地震災害のビデオ鑑賞。地震の被害の様子を見せる。 ● 地震が起きて学校で、一泊避難シミュレーションの物語を書く。	● かまど班と竹の切り出し班に分かれる。 ● 校内にある材料を集め、かまどを工夫してつくる。 ● 竹やぶから竹の切り出しをする。	● 米をとぎ、竹の中に入れる。 ● 火起こしをする。 ● 工夫してごはんを炊く。	● シミュレーション時の写真をはる。 ● シミュレーションまとめのワークシートを記入。 ● 活動項目ごとに反省を話し合う。
ツール (特別に用意したもの)	● テレビ・ビデオ ● ワークシート	● のこぎり・なた		一泊シミュレーション時の写真
場所	教室	運動場・竹やぶ	運動場	教室

VI実践後

参加者への アンケート結果	○「初体験ばかりで失敗もたくさんあったが、もっと工夫したり見直したりして本当に地震が起きたときに生かしたい。」 ○「竹に火がついた時はもう終わりやなと思ったけど、きれいに炊けていて感動的でした。」 ○「実際に地震が起きたとき、生きていくために自分に何ができるかもっと真剣に考え、自ら行動しなければいけないと切に思った。」 ○「子どもは今回の体験を通し、自分たちで考えて行動することの大切を学んだと思います。親子で貴重な体験をさせていただきました。」	
成果として 得たこと	○保護者にも関心を持っていただき、協力的に参加してくださった。防災に対する取り組みが高まった。 ○活動を通して、自分たちの意識や体験の未熟さを知り、自分のこととして真剣に考えていこうという態度に変容してきている。	
成果物	（学習指導案、指導計画書、配布物、ワークシート、報告書、掲載記事等。 データがあればデータファイルを貼付して下さい。）	
広報方法	広報した先	
	広報の方法	
	取材にきたマスコミ	地方の新聞社
	広報された内容（掲載された記事・番組等）	
	成功点	新聞社が予定している子ども新聞と重なり、自分たちの取り組んだ地震避難一泊シミュレーションも取り上げてもらう予定である。（3月20日掲載予定）

	失敗点	
全体の感想と 反省・課題	○ 初めての一泊シミュレーションとしては成功と考えている。子どもだけでなく保護者にも関心を持っていただき、今後この活動をどのように広げていくかが課題である。 ○ 総合的な学習の時間での取り組みだったために、地域に広めることがあまりできなかった。	
今後の予定	来年度以降の進め方	○シミュレーション体験を継続させたい。
	是非実施してみたい取り組み	○ボランティア体験から防災について学ぶ機会を考えていきたい。
自由記述		